



神社の例祭では  
神輿行列の締め  
に胴上げ!

# 桃源郷

## 千年の村 大竹集落



金浦地域の東、県道上郷・仁賀保線沿いにある大竹集落は、日本の原風景のような山里。

集落名の由来となった竹林に、春になれば梅、桃、桜などの花々。細い小路を歩くと、家々の庭にも多くの植物が植えられ、目を楽しませてくれる。

そして『地域で面白く暮らそう』『皆で楽しもう』と活気にあふれ、人々からは、土地への誇り、愛着が強く感じられる。

すべて、物事の移り変わりが早い現代社会の中で、古き良き『ムラ社会』のスタイルを色濃く残す大竹集落。

この大竹スタイルは、悩み多き現代人、課題山積の現代社会の処方せんになるのでは?...

5ページまで、地域力特集をご覧ください。

## 『地域力』

## 創造する

佐藤 玲さん  
(佐藤勘六商店)

はい。いらつしゃい!  
広報で「大竹特集」?  
我々の活動ですか?。  
それでは、ごく簡単に...

地域力特集の第3弾。この特集では「地域力」を「地域のさまざまな課題(防災、防犯、教育、育児、経済、にぎわいの創出などあらゆる分野)を自ら解決する力」「地域の総合力」と定義。ここで紹介する取り組みや事例が、各方面へ派生する。他を刺激して影響を与える。そして、にかほの地域力が培われ高まっていく...。そうした気運の高まりを願い、前向きな活動を応援します。

## 村の古老

須藤繁三郎さん  
(大竹老人クラブ会長)

はあ、広報の方?  
どうも。初めまして。  
私の歳?

昭和一ケタ生まれ。  
大竹で生まれで80年近く。

大竹の歴史?魅力?  
まあ、悪いいごでねえな...。

よし、いい。  
お茶飲んで、ゆつくりせえ。  
話し聞かせよう...

大竹では、私を含め、若手とされる20代から40代くらいの男たちが、実働部隊としてさまざまな活動をしています。消防団、農協の青年部、神社の祭りなど、ここまでは他と同じだと思いませんが、その他、クリスマスイルミネーションや枝垂れ桜のライトアップ、ひな祭り、七夕の飾りなど、集落を明るくしよう、面白くしようとしています。

消防団や地域活動は、加入、参加が少なくてどこでも苦労していると感じます。我々も面倒に思わない訳ではありません。ただ、どうせやるなら楽しんでやろう、それが地域のためになるのであれば、と前向きに捉えています。他にも、野球チーム「BIG BAMBOO(ビッグバンブー・大きな竹II大竹)」を結成し、集落の人の結婚式では謎の集団「ちゆたれ団」が活躍する。途絶えている獅子舞の復活を、今、計画しています。メンバーは消防団でも青年部でもほぼ変わりなく、顔を合わせる機会は、酒飲みも含めて、多いです。だから、各種の話が同時進行で進み「面白そうだ」となったら実行は速い。後先をあまり考えないノリの良さ、フ

「大竹」は千年も昔、平安時代に加賀の国(石川県)から来た3兄弟が住み着いたのが始まりとされている。唐竹の林を切り拓いて家を構えたことから、大竹という地名になったそう。明治22年に金浦村と合併。以後、金浦町大竹、現在、にかほ市大竹となっている。100軒弱で370人ぐらい。昔から戸数はあまり変わらず、それほど減っていない。30年前までは小学校があつて、10年前までは保育園もあつた。段々と、子どもの数が減ってきたのは確かだ。

集落の風景は昔とあまり変わらない。狭い砂利の道が、狭いアスファルトの道に変わったくらいだ。8割方が農家で、大きな造りの家の敷地に土蔵があつて、大体どこの家でもイチジクを栽培している。私の子どものころと変わらない。それから、大竹では、30年続

ットワークの軽さがあります。「超神ネイガー」に、私は初期のスタッフとして関わっていたのですが、ネイガーとその敵役は、大竹生まれという設定なんです。酒の席の話が本当になつてしまった。ただの悪ノリでしたけど。それが、ネイガーのマンガに大竹が載つたのには驚きました(笑)。

私は純粋な大竹生まれ、大竹育ちではありません。沖縄で生まれ、小学5年のころ、父の実家がある大竹にやってきました。その後、首都圏の大学へ進学し、そのまま就職。10年間向こうで暮らしましたが、都会は自分のまちとは思えなかつた。自分の力で何かをやりたい、何かを始めたい、そう思っていました。



イチジクの葉っぱのお面をつけた謎の集団「ちゆたれ団」

皆さんご存知だと思いますが、大竹はイチジクの産地。これを加工した特産品として、昔からの甘露煮に加え、今はワイン煮やジャムなどを商品に加えています。このイチジクで何かできないか。大竹発のイチジクで何か。実は、これを実現しようとして大竹に戻ってきたのです。こうして家業のイチジク加工と酒屋を継ぐというより、むしろ「自己実現」のために戻ってきました。家業の仕事もよく分からない中、学生時代に始めたアメフトのチームを設立。秋田市を中心に活動して、県内に交友関係が広がりました。ここで、自分の中で、秋田のイメージをつかみ始めました。

次のページへ



30年続く集落の運動会